

ノートPCの25年で培ったデジタルプロダクツ技術

Digital Product Technologies Fostered by 25 Years of Notebook PC History

巻頭言

インターネットが生み出したデジタル機器の進化とPCの発展

Internet-Driven Evolution of Digital Devices and Progress of PCs

ことし、東芝のノートPC（パソコン）ビジネスは25周年を迎えました。1985年に世界で最初にラップトップPCを欧州で発売して以来、PCは多くの技術を取り入れ、新たな価値をユーザーに提供するデバイスとして進化し続けてきました。

PCの進化は、インターネットという無限の可能性を秘めたサービスインフラの発展とともに成り立っています。PCの役割は、単に計算機を個人や家庭に普及させたのではなく、インターネットサービスをユーザーに提供してきたことです。

PCの進化とともに高度化したインターネットサービスを携帯電話機が取り込み、次にテレビが取り込もうとしています。ブラウジング、マップ、SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）などPCの機能を取り込み、インターネットサービス端末として進化してきたのがスマートフォンです。これからの5年では、テレビのインターネット端末化、すなわちインターネットサービスをリビングルームの大画面で楽しむ世界の実現に向け、重点的に技術開発が行われるものと予想されます。

PCで発展を遂げたインターネット技術は、ほかのデジタル機器に進化をもたらした一方で、それらの機器の進化もまたPCの進化に大きく貢献しています。例えば、スマートフォンで確立されたタッチインタフェースは、現在のPCの基本ソフトウェア（OS）でも標準仕様として取り入れられました。キーボードを持たないPCの標準インタフェースとして更に進化し続けています。また、スマートフォンのために開発されたOSは、新たな価値をユーザーに提供するプラットフォームとなりそうです。

テレビを中心に発展してきたデジタル映像・音声は、PCユーザーにとっての重要なアプリケーションです。インターネットという帯域が保証されていない通信路で配信されるデジタル映像を、高解像度のディスプレイで美しく再生するための映像処理は、昨今の高性能CPUのよい活用例です。また、3D立体視映像の再生でも、PCの高性能なCPUとGPU（Graphics Processing Unit）を必要とするアプリケーションが多数あります。

PCは一家に1台からひとり1台、そしてひとり数台の時代が来ています。ただ、2台目以降のPCは、機能はPCでも形状が多様なインターネット端末に変わってきました。この多様性の実現と機能革新が当社のミッションであると考えています。今後も、更にデジタルプロダクツ技術を培って、革新的なPCを開発し提供していきます。



下辻 成佳
SHIMOTSUJI Shigeyoshi